

第1回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和5年12月27日(月)午後2時00分から午後4時00分
- 開催場所 富良野文化会館 A会議室
- 出席者 <委員> 北会長、荒木委員、片岡委員、牛島委員、桑原委員、山本委員、渡辺委員、泉委員、小玉委員、飯沼委員、山崎委員、横井委員 (計12名)

※欠席委員 鈴木委員、菊地委員、石川委員、藤田委員
遠藤委員、吉中委員、寺島委員 (計7名)

<事務局> 山下市民生活部長、柿本保健福祉部長、北川建設水道部長、佐藤教育部長、川上経済部長、西野スマートシティ戦略室長、猪股企画振興係長

<受託事業者>フラノデザイン(株) 大曾根

1. 開会(午後2時00分)

- ・事務局より、委員変更及び出席委員の確認、総合計画伴走業務をフラノデザイン株式会社へ委託について説明。

2. 市長挨拶

- ・第1回の富良野市総合計画総合戦略有識者会議に、それぞれご多忙のなかご出席をいただきましたことに感謝申し上げます。
- ・はじめに、先ほど3名の委員変更につきまして事務局より紹介がございましたが、富良野青年会議所 渡辺様、富良野中央婦人会 泉様、また、本日は欠席されておりますが、富良野地区連合会の石川様におかれましては、新たに委員をお引き受けいただき、心から感謝申し上げます。
- ・本年度は、委員各位のご協力のもと策定いたしました第6次富良野市総合計画中期基本計画のスタートの年度となっております。前期計画に引き続き「美しい」のその先へ、WA!がまちふらの」をまちづくりのスローガンとして掲げ、人口減少や少子高齢化等の大きな課題に対し、今後めざすべく将来の方向性を計画のなかで示させていただきました。さらに、ゼロカーボンシティの推進や様々な分野での人手不足、物価高対策等、本市が抱える様々な課題に対して、総合計画に基づきながら、取り組みを加速させているところでございます。
- ・本日の議題は、総合計画の進捗状況と、本市の人口減少等の対策についての2件でございます。詳細については、後ほど事務局からご説明申し上げますが、委員の皆様方には、各分野の専門的な知見から、どうぞ忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

(1)第6次富良野市総合計画中期基本計画の進捗状況について

- ①第6次富良野市総合計画中期基本計画取組状況について
別添資料1に基づき、猪股企画振興係長より説明
- ②富良野市デジタル化の取組について
別添資料2に基づき、西野スマートシティ戦略室長より説明

【荒木委員】

- ・富良野ならではの子育て環境づくりにおける KPI の設定として、子育て環境や支援への満足度を掲げていますが、直近数値としてH30年の数値が記載されています。かなり古い数値となっているが、直近の数値は調査していないのでしょうか。

【教育部長】

- ・令和8年度と令和12年度のKPIで掲げている満足度80%については、令和2年度からスタートした子ども子育て支援事業計画のなかで掲げた目標となっております。満足度調査については、次期第3次子ども子育て支援事業計画策定時、来年以降になりますが、満足度の数値も含めアンケート調査を実施する予定となっております。

【荒木委員】

- 毎年数字を出すのは大変だとは思いますが、2週間前に国の社整審の会議に参加しましたが、必ず KPI については、その年の数値を出しています。KPI の数字は現状の数値を出していただくことで課題等への対応が可能となります。80%という野心的な数値は良いが、現状どうなっているのか、可能な限り直近の KPI 数値を出していただくようお願いいたします。

【企画振興係長】

- KPI の把握につきましては、単年で把握できるもの、出来ないものがありまして、単年度で測定可能なものにつきましては、年度末に企画振興課で取り纏めを行い、市のホームページで公表しているところです。今回の有識者会議につきましては、中期基本計画が本年度からのスタートであり、年度が終了していない状況ということから、進捗状況の報告とさせていただきます。次年度の有識者会議では、令和5年度の実績についてご報告できると考えております。

【牛島委員】

- 満足度等の調査については、不安が大きい方がより回答が高いという傾向があることから、調査実施にあたっては工夫が必要かと思えます。何かあれば道総研にご相談いただければご提案させていただくことも可能となっています。

【横井委員】

- 幸福度調査については、人それぞれ違って大変難しい部分であり、調査をするにあたっては、先ほど牛島委員からの話にもあったとおり、調査項目の工夫が必要かと思えます。

【企画振興係長】

- 横井委員のご発言のとおり、幸福の捉え方については人それぞれであり、決して押し付けることにはなりません。そうした中で、調査にあたっては本調査の趣旨を市民のみなさんにしっかりお伝えすることが重要かと思えます。また、今回調査より市民の幸福度を高めるまちづくりの指標としまして、ウェルビーイング指標の導入させていただきます。令和3年度の調査項目を踏襲しつつ、幸福度を数値化・可視化を図るため、改めて質問項目等の整理を進めたところです。

【横井委員】

- 共創の取組は素晴らしい取り組みと思っています。ただ、市役所のセクションに色々な提案をしても反応がないことがあります。ダメであってもその理由を含めて返答が必要かと思えます。

【企画振興係長】

- 共創のまちづくりを進めていく上でのご発言かと思えますが、富良野市の共創について、市民や庁内にわかりやすく共有していくことが必要かと思えます。ご発言については、庁内で共有させていただきます。

【荒木委員】

- 総合計画策定時の有識者会議では、多くの意見が出され取り入れたものもあります。例えば、ふるさと納税の推進、こども医療費の無償化など。ただ、子育て世代の方からも多くの意見が出ましたが、確かに反映された部分もありますが、少し足りないと感じている方もいるのではないのでしょうか。反映されなかった場合は、理由があるはずで、そこに対しての説明が市側からもう少しあれば良いのではないのでしょうか。すべてのことが出来ることは思っていないが、出来ない場合は、きちんと理由を説明する必要があるかと思えます。

【大曾根】

- 前期計画の策定プロセスで多くのアイデアをいただきました。そのアイデアについては、総合計画の冊子の後半部分に記載をされており、そのアイデアが現状どうなっているのか、少し分析をしています。実情として、すでに動き出していて、形になっているものも多くありますが、なかなか市民等には見づらい状態となっています。こうした動いている状況をフィードバックや、出たアイデアを振り返る機会を今後作っていくことも必要ではないでしょうか。

【横井委員】

- こうした会議で出したアイデアや意見は取り扱われる機会がありますが、私の場合は個人的に担当部署にお話をすることや、パブリックコメント手続きに意見を出すといった機会が多く、意見が反映されることがなく、どこで止まってしまっているのかわからない状況です。個人からの意見についても一方通行ではなく、フィードバックをしてほしい。

【北委員】

- 総合計画につきましては、いただいたご意見をすべて反映されているのか、議事録を含め確認しないとわからない部分ではありますが、多様なご意見を集約し、委員の皆さんとの協議により策定された計画となっています。横井委員のご意見については、こうした会議の場も含め、ご提案いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【横井委員】

- 中期計画は皆さんで合意して出来た計画なので、問題はありません。自分の意見が採用される、されないということが問題ではなく、出された意見を丁寧に扱ってほしい。共創はみんなで考え、アイデアを出す素晴らしい手法と考えています。

【北委員】

- まちづくりの基本となるのが総合計画であり、その総合計画に沿って市民のみなさんとのようにまちづくりを考え、進めて行くのか、そのことが共創の基本となるかと考えています。そのためには、市民の皆さんに総合計画を知っていただく、理解していただくことが重要であり、そこが不足しているのであれば、テーマを設けて共創の取組を進め、みなさんにお見せすることで、理解が進むと考えています。その一環として、太陽の里の資源回収ボックスの取組をこの間進めてきました。地域の方と議論を積み重ね、一つの方向性を導き出した事業と考えます。こうした事業を視える化することで共創の理念が広がることにもつながると考えています。

【横井委員】

- 小さな意見でもそこをくみ取って広げていく、そうした姿勢が市の担当者にはないのかと思っています。

【北市長】

- 市役所の機能として、市民の皆さんの意見を聞くことは当然のことですので、今伝えられたことについては、職員にも周知させていただきます。

【山崎委員】

- 困ったときにどこの部署に相談したら良いのか困ることがあります。以前の会議でも「なんでも聞いてくれる課」という話をさせていただきましたが、例えば、デジタルを活用して意見の視える化を図ってはどうか。

【スマートシティ戦略室長】

- デジタルを活用しての意見の視える化については、共創ワークショップでもご意見がありましたので、今後検討させていただきます。

【飯沼委員】

- 職員一人一人が聞こう、一緒に考えよう、という姿勢が高まってきていると感じています。ただ、自分が関わっていたケースですが、ある支援が必要な方について、市の専門職の方に相談したところ、そのケースは知っていたが、相談がないのでこちらからアプローチはしていない、ということでした。そうではなく、市から積極的に関わり、サポートしていく、そうした姿勢が必要ではないでしょうか。
- 市役所が変わった点でいうと、身内が亡くなったときに、必要な書類・手続きの一覧表を送っていただきました。そのセクションに行くことも丁寧に対応いただきました。さらにデジタルを持って進め、ワンストップの充実を図ることが重要だと考えます。

【北委員】

- 先ほどもデジタルを活用したコミュニケーションの実証実験について報告させていただきましたが、現在皆さんがイメージしているデジタルの姿にはなっていないかもしれませんが、今後とも、デジタル～DXを進めていくなかで、お互いに繋ぎ合わせる観点で、

取組を進めさせていただきます。貴重なご意見としてお伺いします。

【山崎委員】

- 近年鳥獣害による被害が拡大していて、特に本年は熊や鹿による被害が大きいと聞いています。鳥獣害の対策はどのように進めているのでしょうか。

【経済部長】

- 鳥獣害の対応として、例えば最近増えているアライグマの捕獲については、箱わなを増やすなどの対応を行っています。また、ハンター養成のための資格取得費用や銃を購入するための費用助成などの支援を進めております。さらに、市内4カ所で開催をさせていただき、正しい電牧の設置方法の研修を行ってはどうか、などの意見もいただきましたので、2月7日に電牧の設置方法も含めた、鳥獣害対策全般の研修会を実施する予定となっております。

【山崎委員】

- 森林保全の取組について、具体的に地域で何か活動する場合の補助金等はあるのでしょうか。

【経済部長】

- 例えば、森林に関する理解促進に関する事業を行うという計画があれば、森林環境譲与税を活用することも検討できますので、農林課にご相談いただければと思います。

【牛島委員】

- 共創というキーワードが先ほどから出ていますが、他の地域で共創がうまくいっている事例を考えてみると、あなたがやってくれなくても俺はやるから一緒にやらないか、というぐらいスタンスの方がうまくやれる状況をつくることができます。お互いに何か要求したときに共倒れになるパターンとなります。富良野はパワーがあるので、俺がやるから行政がついてこいぐらいでもうまくいく可能性がありますし、他の地域を考えるとやはり何かを要求する共創は失敗することが多いのではないかと考えます。

【荒木委員】

- RPAに関して、削減効果として7500時間とありましたが、全体の業務量の割合ではどれくらいになるのか。過去の有識者会議でも発言しましたが、まだまだ取り組める余地があり、最低でも1万時間以上の効率化を図っていただきたい。庁内のデジタル化を進めることで、そこで出たリソースを市民サービスも含めた他の業務へ充実を進めていただきたい。

【スマートシティ戦略室長】

- 富良野市は正職員で250名の職員がおり、1日7時間45分働いています。1年で220日ほど働きますので、1年間の一人当たりの業務時間は42万6250時間となります。この時間を割り返しますと約1.7%の削減効果となります。

4. 報告

(1) 人口減少・人口確保対策について

- 別添資料2に基づき、猪股企画振興係長より説明
- 【当日資料】「社人研将来予測より」に基づき、荒木委員より情報提供

【荒木委員】

- 別添資料「社人研将来予測より」のとおり、本市の人口減少は危機的な状況となっています。現行の総合計画と人口ビジョンを一体化して取り組むのではなく、人口減少対策と総合戦略を別建てで策定する、その目標数値等を設定し、総合計画のKPIに逆に落とし込むことも必要ではないか。

【北委員】

- 日本全体が人口減少している状況のなかで、どう人口を維持、減少率を抑えていくのか、大変難しい課題であり、人口確保対策は様々な角度から考えていくことが必要であります。出生率が低い状況については、子どもを産みやすい環境を作っていくうえで、魅力ある働く場所や子育て支援を通じて、生活に対する不安を解消し、結婚等につなげていくことも必要ではないかかと考えているところです。計画を分けるのが良いのかどうか、

色々な議論もあろうかと思いますが、現行の総合計画と総合戦略それぞれの計画において、人口減少対策等は一定盛り込まれていると考えています。

【荒木委員】

- ・富良野市の総合計画のKPIをみると、一体化されているためか総合戦略としてのKPIとしては不足しています。他自治体のKPIでは、社会減を半分にするという明確なKPIを設定し、そこに施策を結び付け成果を出しています。富良野市においても、総合戦略としてきちんとしたKPIを設定し、どのような施策を進めるのか。人口減少対策をどう行っていくのか、そこを明確化していくことが必要と考えます。

【北委員】

- ・貴重なご意見としてお伺いいたします。

【横井委員】

- ・人口減少対策の視点で、以前も提案したこともありましたが、不登校児童生徒が全国的に増えているなかで、富良野市の素晴らしい環境のなかで、フリースクール等の形で迎え入れることを検討してはどうでしょうか。全国で困っている人がいるなかで、富良野市が勇気を持って迎え入れる土壌を作り、人を大事にすることで、地域の活性化も図れる、こうした動きを共創でおこなうことも必要ではないでしょうか。

【桑原委員】

- ・それぞれの抱えている背景やケースが違って、一括りで不登校として捉えてしまうのは難しい現状となっています。コロナ化を経て、不登校となる要因・原因も多様化・複雑化しているなかで、全てのニーズにこたえられる学校を設置することは、かなりハードルが高いと言えます。

【荒木委員】

- ・実際に運営するにあたっては、どのようなノウハウをもった人材がどう運営していくのか。マルシェを立ち上げたときには、誰かにやってもらうという気持ちでは誰もやりません。言い出した人間が覚悟を持ってやっていく、このことが必要だと考えました。共創の取組は自分自身がどう関わるのか、この点を大事にしている点でいうとすごく評価をしているところです。

【北委員】

- ・横井委員の発言は、地域の魅力をどう発信していくのか、という点もあろうかと思えます。東山のフォトコンテストの審査員として参加させていただきましたが、この取り組みは素晴らしいと感じました。東山地域の魅力のヒントとなる写真が多くあり、こうした取り組みのなかから、具体的な動きが出てくれば行政としても支援をさせていただきます。

5. その他

- ・なし

6. 閉会（午後4時00分）

【北会長】

- ・長時間にわたり真摯なご議論ありがとうございます。また貴重なご意見を承りました。様々なご議論をいただきましたが、一定の範囲を決めるのではなくて、色々な考え方が行政のなかに取り込んでいくことで、まちの魅力を上がり、外から見ても楽しそうなまちというふうに思っただけなのではないかと思えます。委員のみなさんの引き続きのご協力をお願い申し上げ閉会とさせていただきます。